

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	言語科学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学<グローバル>スタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≒KUGS1.5に対応)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≒KUGS1.2.5に対応)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≒KUGS3に対応)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≒KUGS4に対応)</p>	<p>言語科学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について探究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語科学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語科学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 DPIにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <p>1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≒DP1)</p> <p>2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基礎科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学び、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≒DP1.2)</p> <p>3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≒DP4)</p> <p>4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≒DP3.4)</p> <p>5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのCP】 1年次には、英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、広く言語を知る。また、これに平行して日本語による記述力の訓練も行う。2年次には、基礎講義科目と基礎演習・実習科目(言語学概論、音声学など)を中心に履修することで、言語学の諸分野の基礎事項を学ぶとともに、言語データの収集と分析の方法の基本を学ぶ。3年次には、発展講義科目と発展演習・実習科目(言語学実習など)を中心に履修することで、言語学の個別のトピックや個別言語に関する知識を深めるとともに、言語データの収集と分析の方法を実践的に学ぶ。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心にデータ収集と整理の技術を鍛える。また、そのデータに基づいて議論を構築する能力および自身の見解を発表し、また他人を説得する能力を養う。</p>	<p>言語の科学的研究に必要となる基礎知識および方法論を理解する。</p> <p>複数の言語および異文化に触れることにより、自己表現および他者理解の能力を養うとともに、諸言語の運用能力を高める。</p> <p>言語科学に関わるさまざまなデータに対して、正確な記述および一般化、さらには理論的な分析を行うことができる。</p> <p>言語に関する諸課題を解決するために、文献を正確に講読することにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、さまざまな分析方法を理解する。また、海外の最新の研究動向を理解する。</p> <p>執筆言語を問わずに、文献を正確に講読することで、言語に対するさまざまな分析方法を理解する。また、海外の最新の研究動向を理解する。</p> <p>学問諸分野の知識の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム									
科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
21438	言語学概論A	言語学の基本的な概念と考え方を理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスに触れる。 ・音声学、音韻論などの分野の基礎固めをする。	2~4	*				◎	○
21439	言語学概論B	言語学の基本的な概念と考え方を理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスに触れる。 ・形態論、統語論などの分野の基礎固めをする。	2~4		*			◎	○
21440	言語学概論C	言語学の基本的な概念と考え方をさらに理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスについて更に学ぶ。 ・意味論、比較言語学などの分野の基礎固めをする。	2~4			*		◎	○
21441	言語学概論D	言語学の基本的な概念と考え方をさらに理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスについて更に学ぶ。 ・社会言語学、心理言語学などの分野の基礎固めをする。	2~4				*	◎	○
42530	歴史言語学1	言語の歴史的研究についての理解を深める。 ・原典講義を通じて、言語間の比較研究のあり方、方法論を理解する。 ・言語研究の歴史について理解する。	2~4	*				◎	○
42531	歴史言語学2	言語の歴史的研究についての理解を深める。 ・原典講義を通じて、言語間の比較研究のあり方、方法論を理解する。 ・言語研究の歴史について理解する。	2~4		*			◎	○
42532	社会言語学1	言語と社会のかかわりについて学ぶ。 ・言語の多様性、非等質性を理解する。	2~4	*				◎	○
42533	社会言語学2	言語の多様性、非等質性を理解する。 ・社会言語学におけるデータの分析方法を身につける。	2~4		*			◎	○
42534	言語と認知A1	言語認知の実証的研究がこれまでどのような問題をどのように解決してきたかに関する基礎的な知識を身につける。	2~4	*				◎	○
42535	言語と認知A2	言語認知の実証的研究がこれまでどのような問題をどのように解決してきたかに関する基礎的な知識を身につける。	2~4		*			◎	○
42536	言語と認知B1	言語認知の仕組みを科学的に実証する方法を学び、自らが問題設定を行い、その解決方法を検討する能力を身につける。	2~4			*			◎
42537	言語と認知B2	言語認知の仕組みを科学的に実証する方法を学び、自らが問題設定を行い、その解決方法を検討する能力を身につける。	2~4				*		◎
42538	音声学1	言語音の産出の仕組みを理解する。 ・個別子音の聞き取り、産出、記述が出来るようになる。	2~4	*				◎	○
42539	音声学2	言語音の産出の仕組みを理解する。 ・個別子音の聞き取り、産出、記述が出来るようになる。	2~4		*			◎	○
42540	音声学3	個々の言語音の聞き取り、産出、記述に更に習熟する。 ・プロソディーについての理解を深める。 ・音響的分析の理	2~4			*		◎	○
42541	音声学4	個々の言語音の聞き取り、産出、記述に更に習熟する。 ・プロソディーについての理解を深める。 ・音響的分析の理	2~4				*	◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	言語科学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
 KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
 1. 豊かな教養と課題発見能力
 2. 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≒KUGS1.5に対応)
 3. 社会的応用性を備えた専門性
 4. 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≒KUGS1.2.5に対応)
 5. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
 6. 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≒KUGS3に対応)
 7. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
 8. 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≒KUGS4に対応)

コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
 言語科学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について探究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語科学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語科学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)

【学類のCP】
 DPIにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≒DP1)
 2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基礎科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造論、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≒DP1.2)
 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≒DP4)
 4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≒DP3.4)
 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
 1年次には、英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、広く言語を知る。また、これに平行して日本語による記述力の訓練も行う。2年次には、基礎講義科目と基礎演習・実習科目(言語学概論、音声学など)を中心に履修することで、言語学の諸分野の基礎事項を学ぶとともに、言語データの収集と分析の方法の基本を学ぶ。3年次には、発展講義科目と発展演習・実習科目(言語学実習など)を中心に履修することで、言語学の個別のトピックや個別言語に関する知識を深めるとともに、言語データの収集と分析の方法を実践的に学ぶ。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心にデータ収集と整理の技術を鍛える。また、そのデータに基づいて議論を構築する能力および自身の見解を発表し、また他人を説得する能力を養う。

コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

言語の科学的研究に必要となる基礎知識および方法論を理解する。
 複数の言語および異文化に触れることにより、自己表現および他者理解の能力を養うとともに、諸言語の運用能力を高める。
 言語科学に関わるさまざまなデータに対して、正確な記述および一般化、さらには理論的な分析を行うことができる。
 言語に関する諸課題を解決するためにデータの収集や調査、実験を主体的に行うことができる。
 討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。
 執筆言語を問わずに、文献を正確に講読することで、言語に対するさまざまな分析方法を理解する。また、海外の最新の研究動向を理解する。
 学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
42556	形態論基礎1	形態論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた形態分析の方法を学ぶ。 ・形態分析の基本を身につける。	2~4	*			
42557	形態論基礎2	形態論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた形態分析の方法を学ぶ。 ・形態分析の基本を身につける。	2~4		*		
42558	統語論基礎1	統語論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた統語分析の方法を学ぶ。 ・統語分析の基本を身につける。	2~4	*			
42559	統語論基礎2	統語論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた統語分析の方法を学ぶ。 ・統語分析の基本を身につける。	2~4		*		
42560	意味論基礎1	意味論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた意味分析の方法を学ぶ。 ・意味分析の基本を身につける。	2~4	*			
42561	意味論基礎2	意味論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた意味分析の方法を学ぶ。 ・意味分析の基本を身につける。	2~4		*		
42578	言語学発展演習A1	音韻分析の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた音韻分析の実験を学ぶ。 ・音韻分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*	
42579	言語学発展演習A2	音韻分析の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた音韻分析の実験を学ぶ。 ・音韻分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*	
42580	言語学発展演習B1	形態論・統語論の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた形態・統語分析の実験を学ぶ。 ・形態・統語分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*	
42581	言語学発展演習B2	形態論・統語論の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた形態・統語分析の実験を学ぶ。 ・形態・統語分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*	
42582	言語学発展演習C1	意味論等の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた分析の方法の実験を学ぶ。 ・言語データ分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*	
42583	言語学発展演習C2	意味論等の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた分析の方法の実験を学ぶ。 ・言語データ分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*	
42588	フィールド言語学1	フィールドワークの意義を考える。 ・フィールドワークを実践するためのスキルを身につける。 ・データのまとめ方とプレゼンの方法を学ぶ。	2~4			*	
42589	フィールド言語学2	フィールドワークの意義を考える。 ・フィールドワークを実践するためのスキルを身につける。 ・データのまとめ方とプレゼンの方法を学ぶ。	2~4			*	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	言語科学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≒KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≒KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≒KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≒KUGS4に対応) 	<p>言語科学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語科学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語科学プログラムの学習成果を上げた者と</p>

学類・コースのCP(カリキュラム構成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 DPIにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≒DPI1) 2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基礎科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学科、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学び、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≒DPI2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≒DPI4) 4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≒DPI3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 <p>【プログラムのCP】 1年次には、英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、広く言語を知る。また、これに平行して日本語による記述力の訓練も行う。2年次には、基礎講義科目と基礎演習・実習科目(言語学概論、音声学など)を中心に履修することで、言語学の諸分野の基礎事項を学ぶとともに、言語データの収集と分析の方法の基本を学ぶ。3年次には、発展講義科目と発展演習・実習科目(言語学実習など)を中心に履修することで、言語学の個別のトピックや個別言語に関する知識を深めるとともに、言語データの収集と分析の方法を実践的に学ぶ。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心にデータ収集と整理の技術を鍛える。また、そのデータに基づいて議論を構築する能力および自身の見解を発表し、また他人を説得する能力を養う。</p>	<p>言語の科学的研究に必要となる基礎知識および方法論を理解する。</p> <p>複数の言語および異文化に触れることにより、自己表現および他者理解の能力を養うとともに、諸言語の運用能力を高める。</p> <p>言語科学に関するさまざまなデータに対して、正確な記述および一般化、さらには理論的な分析を行うことができる。</p> <p>言語に関する諸課題を解決するためにデータの収集や調査、実験を主体的に行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>執筆言語を問わずに、文献を正確に講読することで、言語に対するさまざまな分析方法を理解する。また、海外の最新の研究動向を理解する。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム		科目番号	科目名	履修の学年	学	Q1	Q2	Q3	Q4		
42584	言語学実習A1	フィールドに出て調査の実践を体験し、技術を磨く。 ・収集したデータの扱い方を学ぶ。 ・データのまとめとプレゼンを行えるようにする。	3~4	*				◎	○	◎	○
42585	言語学実習A2	フィールドに出て調査の実践を体験し、技術を磨く。 ・収集したデータの扱い方を学ぶ。 ・データのまとめとプレゼンを行えるようにする。	3~4	*				◎	○	◎	○
42586	言語学実習B1	・言語音の物理的性質の基礎を学ぶ。 ・心理言語学実験の基礎を学ぶ。 ・PCを用いた分析方法を身につける。	2~4					*	○		◎
42587	言語学実習B2	・言語データの計量分析の基礎を学ぶ。 ・PCによるデータ解析	2~4						○		*
31005	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*					◎		◎
31006	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定の仕方、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。	4	*					◎		◎
31007	卒業論文演習C	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・具体的な研究課題と研究計画を設定し、これを遂行するために調査・資料収集・文献読解を行い、関連する技法、考え方を身につける。	4	*					◎		◎
31008	卒業論文演習D	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・調査・資料収集・文献読解を通じて得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようにする。	4	*					◎		◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の技法	4	*					○		○
11057	人文学序説A	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主要分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*					◎		○
11058	人文学序説B	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主要分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*					◎		○
11059	人文学序説C	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主要分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文庫)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	*					◎		○
11060	人文学序説D	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主要分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文庫)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	*					◎		○
11063	現代社会・人間学入門	・グローバル化のプロセスがもつ意味を理解する。 ・グローバル化の影響を理解する。 ・人文社会科学の諸分野の学問的方法や道具の概観について理解する。	1~4	*							○
11064	哲学の起源	・西洋哲学・倫理学の起源を歴史的に学び、その特質を理解する。	1~4	*							○
11065	社会情報学A	・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を学ぶ。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを分析的に理解する。	1~4	*							○
11066	社会情報学B	・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を理解する。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを多面的に考察できるようにする。	1~4	*							○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	言語科学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学<グローバルスタンダード>)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≒KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(≒KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≒KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≒KUGS4に対応) 	<p>言語科学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語科学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語科学プログラムの学習成果を上げた者と</p>

学類・コースのCP(カリキュラム構成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 DPIにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≒DPI1) 2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基礎科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≒DPI2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≒DPI4) 4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≒DPI3,4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 <p>【プログラムのCP】 1年次には、英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、広く言語を知る。また、これに平行して日本語による記述力の訓練も行う。2年次には、基礎講義科目と基礎演習・実習科目(言語学概論、音声学など)を中心に履修することで、言語学の諸分野の基礎的事項を学ぶとともに、言語データの収集と分析の方法の基本を学ぶ。3年次には、発展講義科目と発展演習・実習科目(言語学実習など)を中心に履修することで、言語学の個別のトピックや個別言語に関する知識を深めるとともに、言語データの収集と分析の方法を実践的に学ぶ。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心にデータ収集と整理の技術を鍛える。また、そのデータに基づいて議論を構築する能力および自身の見解を発表し、また他人を説得する能力を養う。</p>	<p>言語の科学的研究に必要となる基礎知識および方法を理解する。</p> <p>複数の言語および異文化に触れることにより、自己表現の能力を養うとともに、諸言語の運用能力を高める。</p> <p>言語科学に関するさまざまなデータに対して、正確な記述および一般化、さらには理論的な分析を行うことができる。</p> <p>言語に関する諸課題を解決するために、文献を正確に講読することにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>執筆言語を問わずに、文献を正確に講読することにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に關わる複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
11067	ジェンダーと社会A	現代社会におけるジェンダー概念の意義と関連する諸課題について学ぶ。 ・ジェンダーの視点から諸課題の構造や課題解決のアプローチについて考察できるようにする。	1~4			*	
11068	ジェンダーと社会B	・多様な性と関連する諸課題について学ぶ。 ・ダイバーシティとインクルージョン(社会的包摂)の視点から分析・課題解決の方法について理解する。	1~4				*
42621	知覚・認知心理学A	感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程における役割を理解する。	2-4				
42622	知覚・認知心理学B	認知に関する諸現象や基礎知識を学び、認知過程と心理過程の特性を理解する。	2-4				
42623	学習・言語心理学A	学習心理学の基本的な現象、研究法、および説明理論について基礎知識を習得し、現実場面に応用できるようにする。	2-4				
42624	学習・言語心理学B	学習心理学の複雑な現象と説明理論について理解するとともに、言語心理学の基本的な現象、研究法、および言語習得について基礎知識を習得する。	2-4			○	
42625	感情・人格心理学A	人格心理学に関する理論や実証的研究が理解できるようにする。	2-4				
42626	感情・人格心理学B	感情心理学に関する理論や実証的研究が理解できるようにする。	2-4				
41475	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、図像資料、文学資料などを駆使して研究する方法を学ぶ。	2年		*		
11069	北陸の考古学	北陸地方の主要な史蹟について学び、考古学的に北陸地方の歴史を復元できるようにする。	2年		*		
11070	宗教芸術論	おもに、キリスト教・仏教の芸術について、それぞれの基本的な知識と、両者の差異、それを生み出す文化的・社会的背景に関する知識を修得する。	2年		*		
11071	イメージを読み解く	人類がこれまでに生み出したさまざまなイメージを手がかりに、人間の持つ普遍性や、地域や時代に応じた固有の文化のあり方を修得する。	2年		*		
11072	グローバルヒストリー	一歴史の枠を超えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2		*		
11078	歴史学と現在1	戦後日本(敗戦直後から高度経済成長期まで)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。	1				
11079	歴史学と現在2	戦後日本(高度経済成長期以降)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。	1				
41975	日本語学講義1	・日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通じて、その基本的特徴を理解する。 ・言語の現象についての基本的な理解を身に付ける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)
11073	日本の物語と語り物	・日本文学史を貫く問題や時代代の区分の中でのジャンルを模索して看取される共通点を取り上げて追跡・追求することができる。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)
11074	日本文学の近代	・近代文学と社会の関係に注意を払い、論理的読解ができる。書家の創作にまで注意を払い、注釈的読解ができる。日本近代の問題について知見を深めることができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)
11075	日本文学とメディア	・現代文学と社会の関係に注意を払い、論理的読解ができる。書家の創作にまで注意を払い、注釈的読解ができる。社会の問題について知見を深めることができる。	2,3,4			*	
11076	中国の言語文化A	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*	
11077	中国の言語文化B	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*	
21401	言語研究入門	語学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4	*			○
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4		*		
21416	比較文学入門	比較文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4			*	
21417	言語認知科学入門	・認知科学における言語の位置付けを理解する。 ・認知科学を学ぶ上で基礎となる心理学の知識を学ぶ。	2~4			*	○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。